

北海道ヘルスケア産業振興協議会 全体会合ワークショップの結果

・各グループにおけるヘルスケアビジネスに係るキーワードは、以下のとおりです。

【テーマ：アクティブシニア】

グループ	目指すべき姿・将来像	実現に向けた方法・課題
A	<ul style="list-style-type: none"> ・(健康⇒シニアの利益) →公的下支え ・健康でキレイな高齢者を！ ・高齢者施設へエステ、ネイル、ソフトマッサージの訪問サービス ・助成金、補助金を受けるにあたっての書類作成、事業計画書作成支援 ・包括ケアシステムの課題 ・地域の担い手不足を解消、参加者の生きがいづくりを目的としたアクティブシニアの就労 ・既存の保険体制では高齢化に対応できない。アクティブシニアをより健康にする保険外サービスを地域に。 ・創業、新ビジネスモデル事業計画支援 ・経理、事務的な物の整備 ・テレビを活用した情報発信でビジネスの活性化 ・シニア対象の仕事の創造←国から、自治体から ・高齢者が支えられる立場ではなく、地域の担い手となっている社会 ・産地と病院、介護施設への物流、加工ルート、良質な食材の食事 ・特に男性が参加し易いコミュニティが必要 ・ワクワクさせるコンテンツ必要！ ・地域(生活圏)の中で、芝生(ちょっとした支援、相談) ・就労支援事業の多様化 ・食と農をつなぐ。心も体も健康に ・地域で、家で最後まで暮らし続ける ・障がい者、未就労者、高齢者も仕事がある ・保険外サービスがリーズナブルに使える 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康支援、医師のみでは無理。 ・コ・メディカル+企業の力をうまく使うシステム作り ・アクティブシニアへの謝金と最賃問題 ・エステ、ネイルの施術者の養成 ・実現のための資金が無い(番組制作費) ・①新たな職の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・介護人材の支援 ②自ら技能、経験を生かした職の場の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・美容師、看護師、大工 ・経営者 ・シニアの就労(活用)に対する助成金制度 ・大学、高校での講師 <ul style="list-style-type: none"> 地域の取りまとめ役 高齢者住宅のモニタ ・多世代で住めるコミュニティ ・札幌は制度たてわり ・地域福祉と制度があればいい ・「シニア」の多様化 ・障がい者の方の高齢化 ・工賃の低さ ・事業の質 ・農作物も売れるシステム <ul style="list-style-type: none"> 販路にネットワークの活用 ・年金の範囲内で生活したい…という意識が強い ・社会福祉事業と民間企業の参画障壁 ・保険外サービス実施事業への公的な補助を！ ・継続するには収益が必要だが難しい…
B	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者でも出来る業務を生み出して労働生産してもらおう。ITがブリッジになる ・労働、社会活動に対する「対価」が必要 ・シニア×障がい者×農業 ・障がい者の余暇充実化にシニアが参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ×教える 組織化 ・意識を変える為のITを利用したしくみづくり ・場づくり ・人財育成

	<ul style="list-style-type: none">・シニア人材の活用と若年層との交流の機会、場づくりが大切である。・元気なシニア・生きがい、得意な分野でボランティアする（収入金額はともかく）・シニア向け教育の場づくりを増加させる・アクティブシニアの「活動」「実体」(特徴)を、様々なメディアで露出してゆく事が重要なのでは・シニアのニーズに合ったアイデアを我々がもっと考えたい	<ul style="list-style-type: none">・コミュニティづくり・シニア向け創業スクール
--	---	---

【テーマ：地域課題解決・地方創生】

グループ	目指すべき姿・将来像	実現に向けた方法・課題
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹産業と連携するヘルスケア産業 ・ セカンドライフを故郷で ・ 高齢者の生活支援に参加できる町づくり ・ 3世代交流 ・ ヘルスケア産業 ・ クラスターの産業集積 ・ 「健康」と切り口としたヘルスツーリズムの推進による観光関連産業の発展 ・ 高齢者を大切にすまちなづくりの再構築。 ・ 3世代同居の復活 ・ コミュニティ・レストランの立ち上げ（単なる居場所ではなく、「食」を中心に） ・ 広域的な連携、専門職の支援体制 ・ コミュニティの場の提供 ・ シニアと若者共存 ・ シェアハウス（空家の活用） ・ 連携とネットワークの推進によるヘルスケアビジネス ・ 地域ケア体制構築のための地域資源の活用（医療、介護、商店街、企業、町内会）や地域活性化のビジネスモデル ・ 生涯現役の町づくり（定年関係なく障害の有無も関係なく、役割をもって働くことの出来る町） ・ 北海道の広域性を考えると、人口の集中している都市部の手法は使えない。 ・ 地域に住み続けるためには、自治体、医療介護機関、民間事業者、NPO、元気高齢者など多様な担い手が連携したプラットフォームがあると良いのでは。 ・ 地域の活性化につながる高齢者の見守り(安否確認)、支援の仕組みづくりの構築（社協、デイサービス、商店等の連携） ・ 地域コミュニティのスキーム化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスの信頼性向上 ・ 地域内の需要創出 ・ 地域の様々な事業者（異業種）の連携、交流 ・ 地域外から需要創出（観光） ・ 人手不足→Uターン高齢者 ・ 子育て環境を良くして行く ・ 観光の流入の促進 森林浴→1週間 エビデンス ものづくり IT系 ・ 信頼性の向上 ・ 地域の特性、資源の活用 ・ 人材→回帰Uターン、インフラ整備 ・ 定住率向上→地元の企業の活性化。 ・ 産業システム作り
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しく遊ぶ（運動教室） ・ 美味しいものを食べる（ケータリング） ・ 若者（学生）等 ・ 高齢者 ・ 楽しく ・ 100才まで豊かに暮らせる町作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シルバー人材センターの活用 ・ つなぎ役 ・ ボランティア組織 ・ ベンチマーク・コスト⇔アンテナの活用 ・ 自治体 対 病院 ・ 団体行動苦手

<ul style="list-style-type: none">・地域の課題 引きこもり、閉じこもり・生活習慣病がない世界・男性少ない。プライドが高いのか・厚労省 毎日 40 分の運動・ものづくり企業が医療分野に挑戦する風土作り・医・介とその他業界のデータ共有	<ul style="list-style-type: none">・法規制
---	--

【テーマ：食】

グループ	目指すべき姿・将来像	実現に向けた方法・課題
E	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もがその人に合わせた健康食を食べられるようになると良い ・気軽に健康食について相談できるシステムがあると良い ・健康食の宅配事業 ・6次化産業の一環として、減農薬、無農薬野菜、畜産等のトレサビ管理 ・正しい健康情報の発信 ・健康な食事とは何かをはっきりさせたい ・おいしい配食（高齢者困っています。センターも） ・クラウドによる管理で、安全、安心な商品のデータベースを構築。簡易画面で、高齢者もわかりやすい検索画面にする。 ・高齢者にふさわしい食事、食品をはっきりさせること ・産業群として、ネットワーク化、コアになる民間、NPO等が必要！！ ・在宅療養者に病態に合わせた療養食を提供できるシステムがあると良い（宅食） ・リタイア後の夫の食事の自立をどうするか ・栄養バランス×道産品の“北海道ヘルシーランチ”普及 ・1泊3食ヘルスツーリズムプラン ・医療費削減のため、企業でもっと管理栄養士をおき、相談業務 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の仕入れ、調理、配送の連携 ・企業間で有益に進められるか？ ・企業さまへの認知 ・メタボの急増 メタボ世代の食の乱れ ↓ 産業食、メタボ世代こそ配食 ・民間企業が商売として本当に成り立つのか？ ・①実現可能、持続可能なヘルスケアビジネスをモデル化することが重要と思います。 ②「食」のアプローチによるヘルスケアについて考える ・アジアの人々向け「食」を中心とするヘルスケアツアー ・受け入れ施設のソフト・ハード整備 ・あやふやな健康情報が多すぎること ・健康アップなプチ旅行 北の自然な食材を使った料理の体験＋森林浴（メンタル）＋瞑想＋ハイキング＋温泉
F	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティーづくり ・食育とのつながり 多世代交流 ・農業ヘルスツーリズム ・農業と特産物観光 ・食と農と健康ツアー ・未病の段階で食を通して健康を ・健康＝食の見直し （地元）（旬）（体にいいものは違う） ・継続できるもの→難しくない ・楽しみ 長期レンジ ・定年後→地元のシニアリーダー制度 （学校先生）（農業先生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇町生産者ツアー <ul style="list-style-type: none"> ・想いを学ぶ ・専門家の“知識”を学ぶ ・たまねぎツアー <ul style="list-style-type: none"> ・生産者と農業体験 ・店舗で勉強、料理 ・販売体験 ・専門家を有効利用 ・参加者のリレーションSNS作り ・健康＝生きがい ・健康寿命 健康食のあり方 ・みんなでするもの 祭り企画

	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用促進 ・健康＝スポーツ 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の修学旅行 グループで活動し、コミュニティをつくる ・必要な栄養素を有効にとるための方法(調理) ・継続した人との関わり ・知食で健康を ・健康＝地域 コミュニティーできることは？ ・仕事(農業 etc)が出来ること 近所つき合い、手間貸し借り ・マラソン ・登山 ・健康のその先の目的作り ex.美肌とか、ダイエット ・カラオケ教室
G	<ul style="list-style-type: none"> ・味覚、運動量、体格の違い ・人生の健康＝食べること ・これが食べられるは喜びになる ・イメージで「食べられない」と考えていることを壊す ・総合的に判断した食のアドバイス ・自身の意見＝食への意見 ・健康診断後 ・健康を軸に ・大麦の加工（加工施設の共同利用） ・管理された食事 ・提供されたものしか食べられない ・機能性成分 ・個人に合った食事 ・病気ごとに食事が違う ・自分にとっていかに重要かが分かる指導法 ・総合的に見た食のバランス ・確かな情報を収集する方法 ・楽に情報収集 ・1日の食事が点滴に ・食材、お皿だけでなく、食事全体を診る ・最期の楽しみは食 ・「これは食べられない」を正しく伝える ・子供から食の教育 ・在宅に戻ってきた時にどうするか ・知る機会の損失 ・楽しく教える 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは確保 ・ハードルの低いアドバイザーの活用 ・楽しく教える力をどう教えるか ・指導するスキルを高める ・人材育成 ・情報 ・機能性食品 ・糖尿病にならないアドバイス 病院にいる管理栄養士が家族含めての指導 ・知り合いの専門家に聞くための相談窓口 ・薬剤師の活用 ・分かりやすく伝える ・プロとして人生に関わる ・大麦－糖尿病疾患 (βグルカン) → (血糖値 Down) ・上手に活用 ・PR ・添加物を減らす
H	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客に栄養面で他地域と差別化した農産物メニューを提供したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・外食産業の協力 ・統一の評価指標

<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病患者に疾病があっても安心して食べられる外食メニューがあると良い ・子供たちが健康食品を楽しく食べられるレストランがあったら行きたい ・食事制限者にカロリーを考えたおいしい食材があったら利用したい ・介護を受ける人に介護食、サプリメントを提供したい ・高齢者を働かせたい 高齢者の社会参加 ・病気予備軍を減らしたい(予病) ・シニア層に自然食品の良さをわかりやすく、クックパットのようなITでの情報提供と安く購入できる販売先の提供 ・健康食品をわかりやすく、機能表示があらゆる企業ができるような仕組みを提供したい ・高齢者に食生活、健診結果を一元化した健康管理サービスを提供したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の企業と人の思いの実現への金融支援 ・幅広い世代で楽しめる健康テーマパークの中で、運動(アトラクション)＋健食コーナー＋美容＋リラクゼーション ・新しい小売店の設立 ・自然食品など機能性食品を気軽に提供できる場づくり。 ・食べれるショップを多く作る ・食育(世代毎、環境毎) ・健康食品をヘルスケアに役立てるのであれば 薬→医師、薬剤師 健康食品→〇〇師 正しい情報提供を 薬→ジェネリック→健食 ワーフアリン→ミミズの粉末 ・行政が評価組織を整備(食品評価センター) ・基準を作る ・医療機関との連携
---	---

【テーマ：医療・介護機関との連携】

グループ	目指すべき姿・将来像	実現に向けた方法・課題
I	<ul style="list-style-type: none"> ・年代毎のニーズに合ったサービス→事業成立性が高まる ・個人のニーズをサービスに反映させる仕組み ・看護、介護スタッフに作業環境改善を支援するツールを提供したい ・調剤薬局の在宅への進出のサポート(残薬) 高齢者にバイタルセンサーを提供したい ・在宅介護（安否確認）ネットワーク化～介護DB化～ ・利用者のニーズを事業者結びつける、つなげる仕組みの構築 ・異業種連携の活性化 ・薬でなくても、医師から処方される制度にアプローチしたい ・北海道＝あまり健康でないイメージから、北海道＝健康、長寿というイメージにしたい ・高齢の親と離れて暮らす方に、モバイル通信を使った見える化サービスを提供したい ・WEB等を通して地域へのヘルスケア等のビジネスを作りたいが、“何”が決まっていない。 ・医療コスト削減。IT技術活用 ・ICTを活用した商品開発したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種事業者間でのデータ共有が必要ではないか ・高齢者に対する多様なサービス提供 ・医療介護周辺産業との連携 ・ICTの活用 ・マイナンバーの活用 事業コスト→社会コストの削減－医療費が大きく下がる ・各事業者の情報共有
J	—	—
K	<ul style="list-style-type: none"> ・病院との連携 ・ウェアブル端末 ・センサーデバイスとの連携 ・自治体との連携 地域IP網の活用 ・見守りサービス ・デジタルペン(アナログ) ・家族の方等にデータが届く ・電子カルテ 介護事業者と連携 ・産学官連携 ・日常の変化をとらえる ・ものづくりでの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなデータの採集のプラットフォーム ・キーマンの家族へのアプローチ ・ヘルスケアの場合、動機付けが大切 ・対象をしぼることも大切 ・ビジネス化には個人対象でなく、団体等に提案 ・医療・介護側からの声かけが必要 ・行政側への要望 ・運動サービスのモデル事業
L	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニケーションが容易にとれるスペースの提供 ・関心の高い趣向のものを個別にあっせん ・住民のニーズを他職種とのネットワークで供 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護 ・地域連携 ・情報共有 ・介護人材不足

	<p>給したい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積雪地 安全な移動手段の創造 ・寒冷地対応のオールシーズン利用可能の運動スペースの提案 ・物理的距離の近い居住空間で介護、看護サービスを包括したサービスを提供する ・ウェアラブル機器を使用した見守り ・色分けによる地域見守り ・GPS付き靴による徘徊見守り ・住居とサービスステーションとの通信ツール ・認知症 ・介護者の労力を軽減 要介護者の監視?→システム化? ・ワーク・ライフ・バランス推進 ・寝たきり老人を減らす為にオプティマルヘルスを実現する社会システムを構築したい。 ・健康・医療の知識を老人にもってもらう ・ICT健康管理 ・在宅生活(独居率) ・食、観光、医療の連携 ・良き看取りの出来る地域 ・良き子育ての出来る地域 ・子育て 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成
--	--	---